
2人きり

葵羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2人きり

【Nコード】

N6495A

【作者名】

葵羽

【あらすじ】

ある日曜日の出来事。ちょっとしたほのぼの系ラブ(?)ストーリー。

ある日曜日、哀は家でくつろいでいた。

「哀くん、今日は暑いのお」

「そうね…」

博士は研究室からのこのこやって来た。

哀は片手で団扇を扇ぎながらファッション雑誌を
読んでいる。

ピンポーン…

「哀くん、出てくれないか」

「ええ」

哀も日曜日の昼にいきなり誰だろうと思いつつながら
玄関の戸を開けてみた。

「よおー」

「工藤君… どうしたの？」

「ま、とりあえずお邪魔するぜ」

そう言ってコナンはズカズカと家に入り込んだ。

「よお、博士」

「新一！ どうしたんじゃ？ まだ新しい発明品は

出来ておらんぞ」

「いや、今日は灰原に用があつて…」

「え？ 私に？」

「ちよつと公園でも行かねえか？」

「別に良いけど…」

こうして哀とコナンは公園へ行つてしまった。

公園では哀もコナンもブランコに乗っている。

「で、用つて何？」

「…その…」

「何よ？ 何か用事があつて連れて来たんでしょ？」

「…ごめん！」

「え？」

「実は用事なんてなかったんだ…」

「はあ！？ じゃあ何でわざわざ公園なんか…」

「お前と2人きりになりたかつたんだよ／＼／」

そう言うとコナンは哀の手をギツユと握った。

哀は一瞬驚いたがいつものポーカーフェイス。

「2人きり？」

「だってよ、お前最近探偵団と遊んでばっかじゃん…」

お前意地悪して俺に用事がある時ばかり遊ぶし…」

俺だつてお前と遊びてえよ／＼／」

「…はいはい分かつたわよ、探偵さんが焼き餅
してるつて事がよく分かつたわ。

だからこの手放してくれない？」

「へ？」

「だ・か・ら！ この手放して」

「あ、ああ、ごめん（俺いつの間にも手なんか握ってたのか…？）」

「用事がこれだけだったらさっさと帰るわよ」

ギョッ

哀はコナンと手を繋いで歩き出した。

「は、灰原？」

「そんなに焼き餅焼かれると迷惑なのよ。

たまには手繋いで帰ってあげても良いけど／＼」

哀はコナンと目が合わないようにそっぽを向いて喋る。

「ありがとな」

こうして2人は帰っていった。

(後書き)

初投稿の葵羽です。

小説を読んでくださってどうもありがとうございます。

コ哀が大好きなんでこれからもコ哀小説をたくさん
書いていきたいと思えます

これからも宜しく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6495a/>

2人きり

2010年10月11日01時39分発行